

佐々木高政著「英文構成法」金子書房 1949年11月20日刊を読む

The art of using a better word in a better placeを目指して

1. もうかれこれ 13、4年、私はあちこちで様々な人の書く英文を添削する仕事に従事して来た。年々歳々人変われど誤り変わらずで、一体何の因果で、こんなくたびれる仕事にぶつかったものかと溜息をつくことしばしばである。それというのも、英文の構成に関する基礎概念も持たぬ人、平たく言えば無我夢中デタラメに横文字を並べて何とかヤツツケタつもりでいる人が非常に多いからである。誤りを指摘するだけではピンと来ない、なおしてやっても次にはまた同じ誤りをてん然と犯す。誤りを個々に説明し訂正するだけでは全く蠅を一匹一匹追いかけるに等しい。いつまでたってもキリがない。血眼になってもそれだけの効果があがらないのである。
2. が一方、英作文を学ぶ人の身にもなってみなければならぬ。一々先生に手を取って教えてもらえればよいが、そんなことは到底望めない。そこであれこれと本を読みあさるのだがなかなか適当なものは見付からぬ。英語の熟語とか成句とか称するものを練習させるために英訳用和文を並べた本、和文をその内容別に配列と語句の注釈を添え「さあ全体を訳してみたまえ」といった本、または都合のいい誤りを含んだ訳文を掲げそれを添削した本、これだって熱心に行えば力はつくのだが、だれだって自分で筆をとって書いてみるのは面倒だからつい訳例を読むだけですませてしまう。これで書く力がついたらつく方が不思議である。しかしこれらの本に失望する人は何を求めているのであろうか。それは英作文の第一歩、すなわち「いかなる語をいかに配置したら英語として正しい文になるか」という系統立った知識ではなからうか。熱心な人はそうした知識の端切れをあちこちから拾い集め自分でまとめ上げる。しかしそれには長い年月がかかるのである。
3. このささやかな本で私が試みたのは、私なりにまとめ上げたごく初歩の writing knowledge of English をできるだけ系統立てて述べることであった。英文を綴る第一歩として「どのような語をどのように並べる」のかを説いたのである。これは「英作文として教えうる、また教えて効果のあるのは、ある一定の型に従えばだれでもまず正しい文が書ける部分、いわゆる基本文型の範囲内である」というかねがねの私の考えに基づくものである。
4. 第一部の「修飾語句の並べ方」で、「名詞・動詞を中心にして」各品詞間の結合の原則といったものを考え、さらに語が集まって一個のセンテンスを構成する場合、用いられる動詞の性質によって加わることを許される言葉が違う、つまり異なる文型が生まれる、その手順を第二部で説明した。ふつう文法書では動詞の性質によって文型を5つに分けるが、これでは大ざっぱすぎて実際には役立たない。かといってあらゆる場合をすべて包括しようとするれば、分類がさらに分類を生み、あまりにもわずらわしすぎて、これまた実用には適さなくなる。最上の道

はどうもその中間にあるようである。そこで種類をなるべく少なく、しかし実際によく用いるものはなんとか全部含まれるように基本的文型を考え、材料を集め分類したのがこの第二部である。こうしてでき上がった文と文をつないだり、またはつづめたりする色々な場合を最後の第三部で練習することにした。例文は主として英米の小説・劇・新聞・雑誌から集め、残り少数は現行の中学・高校用英語教科書から採った。

5．繰り返して言うが、本書はあくまで英作文の第一歩、すなわち文法的に正しい英文を書くには、「いかなる語をいかに配置したらよいか」を説くのであって、その次の段階である「英語らしくこなれた文を書くには」といまでには手を伸ばしていないのである。英語では、ある場合にはあるキマリの文句があって、そのキマリを踏みはずさずに文章を書くといかにも英語らしいものができ上がるのであるが、こうした知識は平常多くの英文を注意して読み、一つ一つ覚えて行くよりほかに道はない。さらにその次の段階、すなわち既成の表現を自由自在に形を変え、新しいものを作り出し、文章の効果を挙げるコツとなると作文書のはるかかなたにあるといってさしつかえない。最終の目標は 'the art of using a better word in a better place' 詩を書くなら 'the best word in the best place' であるが、この文体という怪物は文法や慣用のナワでは縛れないのである。

6．英作文の本は読むためばかりでなく、書かせることを重要な目的とするものであるから、この本の中にある練習問題も必ず一度はペンをとって書いていただきたい。進歩はそこから生まれる。それでこそはじめて私がこの本を作った目的も達せられたと言えるのである。

[コメント]

「和文英訳の修業」と並ぶ佐々木高政先生の英作文の教科書の古典中の古典「英文構成法」はその人の英語人生を一変させる。英語学習の時間の不足する学生・ビジネスマンほど、本書を1ページずつ着実に「理解」し、「定着」させることをお勧めしたい。名著といえる

- 2009年7月31日林明夫記 -